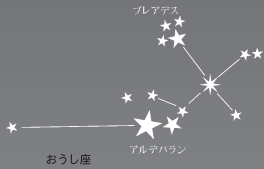


ポラリスを仰ぐ北の大地から



ペンギン・パレード

北広島医師会 会長 鈴木 勝美

過日初めてオーストラリアへ旅行する機会がありました。羽田空港からシドニーを経由してメルボルンに到着しました。メルボルンは非常にきれいな街で、中世ヨーロッパを思わせる建物がいくつもあります。このメルボルンの市街から車で2時間くらいの郊外にフィリップ島という島があります。この島はリトルペンギンというペンギンの群生地であり、「ペンギン・パレード」は世界的に有名です。ペンギンは世界で18種類が生息しているようですが、このリトルペンギンは身長が40cm、体重が1kg、世界で最も小さなペンギンの一つです。

海岸近くの草むらや灌木の中・藪の中・岩の下、時には海岸近くの民家の縁の下などどこにでも巣穴を作り、そこで卵を産み、ひなを育てます。彼らは日の出とともに海に出て餌を探します。日中はずっと海の中において小魚やイカ・タコなどの餌を探し、日が暮れるとお腹にいっぱいのお腹を入れて海岸に戻ってきます。最初は海岸に2～3羽上陸し、周りに危険がないことを確かめてから、再び海に戻り、今度は仲間を連れて次から次へといくつもの集団が繰り返し上陸してきます。上陸したペンギンは直立で歩行できないためにやや前傾の姿勢で歩き、まるでパレードをしているかのように我が家に戻っていきます。それは水族館で見る人為的なペンギンのパレードではなく、まさに自然のペンギン・パレードです。ゴールである我が家にはお腹を空かせたひなが待っていることもあります。本来はとても攻撃的な性格のようですが、仲間への思いやり、家族を大切にすることを学べるものがあります。

また、新しい一年が始まりました、今年は昨年以上に患者さんや職場の仲間たちを大切にしたいと思っています。



関西テイスト

函館市医師会 会長 本間 哲

大阪で買い物をするとき、至る所で値切っている姿を見かける。大学時代を含め約17年も関西で生活してきた私にとっては当たり前前の光景である。たとえ1円まからなくても、それが彼らのご挨拶なのだと思っている。家内は生粋の江戸っ子で、市場では平気で値切るのに、デパートなどで冗談でも素振りを見せると今でも嫌な顔をされる。私たちは何事にも尺度を持ち、大阪人はそれをネタにしたお喋りが大好きである。だから何かにつけて彼らの尺度から少しずれた言動はすぐ話題になるのだろう。ゴルフをしていても相手のスイングを自分と比べてどうのこうの、失敗すればそれはここが悪いからこうすれば良くなるとか、クラブの講釈もなかなかうるさい輩が多くコースでわいわい喋りながら回っているのは大抵大阪人である。

食に関しても、彼らの尺度にかなう味を出さない限りその店は流行らない。料理は私の道楽であるが、関西には私の好きな味が多い。当時覚えた味覚が私の味付けの根底にあるような気がする。料理は化学反応の組み合わせだ。素材から旨味を引き出すために色々な下ごしらえや手順があるのだ。それを省略したり、順を違えると決して旨いものは作れない。アサリの旨味成分はコハク酸なので、それを引き出すような下ごしらえ（殻を良く洗って水から上げ、暗くして冷所に2、3時間置く）とそれに合う出汁で冷たいうちから火を入れ煮立たせない。シジミはコハク酸も多いが特にオルニチンが多く含まれ、これを増やすには一旦冷凍してから調理する。などなど、この手の話は三日三晩かけても終わらない。そして料理が完璧なものに仕上がっても、食する者が旨いと感じるには他にも条件が必要なのだ。食器、照明、部屋の設え、誰と一緒に、気分、体調、そして何よりの事情、それは『空腹』である。